

## 52 おおよどおもちゃ病院 —おもちゃを大事にしてあげてね—

浩子さんこんにちは。学校で勉強したはんだ付けの腕で祐一君の電車は直せたけど、垂矢ちゃんの人形は駄目だったというお手紙受け取りました。技術家庭の勉強が役に立って良かったですね。

おじさんも昔は子どものおもちゃを直したりしましたが、最近のおもちゃには複雑なものが多く、手に負えないものがあります。そんな折、大淀町におもちゃ病院があると聞いて見学してきました。毎月第3土曜日に開かれるというこの病院、子ども連れのお父さん、お母さんがおもちゃを手を待っておられました。

写真は診察の受付です。犬のぬいぐるみを持ってきた子どもとお母さんは「かげんの悪いのはどこですか」という鈴木院長先生のおたずねに、「足が動かないし、鳴かないのです」などたくさん調子の悪い所を説明していました。



ここでおもちゃを治してくださいるのは、院長先生と3人のドクター、この日は大阪や奈良の病院からも3人の先生が応援に来られていました。この先生たちがボランティアでおもちゃを治していただきます。全国ではこんな病院が260もあるということでした。

動かなくなったというトーマスの機関車は連結部分の断線でした。修理をしながら、「この電池からの電流がここを通过这个のモーターに行くんだよ」というドクターのお話、これを持ち込んだ子どもは一

生懸命にお話を聞き、お父さんと話し合っています。修理の途中が理科の勉強であり、大人との触れ合いの時間なのです。そして、新しい電線をつないでできあがり。「太い目の電線に替えましたから丈夫になったよ」ということでした。

次の男の子の持ってきた自動車は、「クラクションが鳴らない」ということでした。ドクターは丁寧に診察、5mm くらいの小さなスイッチを新しいものに交換すると鳴るようになりました。ドクターはこわれているスイッチを分解、写真は名刺に乗せたスイッチの部品です。「ここがだめになっているんだね」とも研究熱心なドクターです。



この日、持ち込まれたおもちゃ 10 個のうち 9 個は、元のように元気になって「おじさんありがとう」と帰って行きましたが、重症と診断された犬のぬいぐるみは入院ということになりました。

次は診察を終えたドクターのお話です。

「帰り際の『ありがとう』でやる気が出るんです」

「こんな活動を通して、子どもたちが物を大切にする気持ちを持つてほしいと思います」

「そして、物の仕組みに興味を持ち、科学技術への関心を高めてほしいですね」

浩子さんも、祐一君と亜矢ちゃんのおもちゃのお医者さんか看護師さんですね。がんばってください。

追伸 浩子さんやおじさんの体験のところでは「直した」と書き、おもちゃ病院の先生のところでは「治した」と書きました。気がつい

たかな。ちょっとお医者さんらしくと思って書いたのです。

(平成 23 年 2 月・中学校 2 年生の浩子さん宛て)

## スポットの案内

おおよどおもちゃ病院は毎月第 3 土曜日に開かれ、受付は 13:30～16:00 です。場所は大淀町下淵 1298-1 の大淀町立児童センター、近鉄吉野線下市口下車、徒歩 15 分で、電話は 0747-52-8319 です。

こわれたおもちゃのようすをお話できるように、そして、説明書や入っていた箱も持って行くといいでしょう。

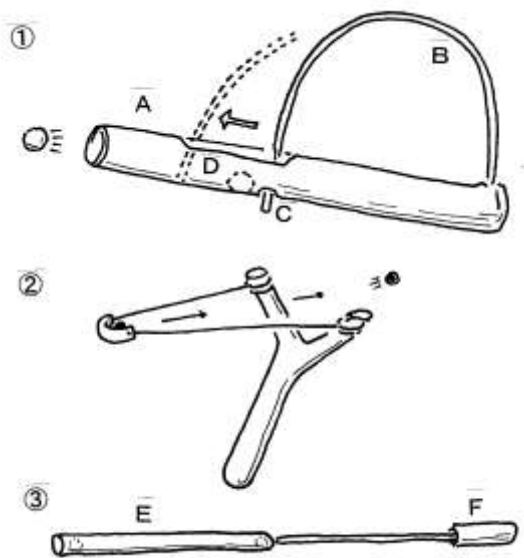
おもちゃ病院は、このほか、奈良市、大和高田市、橿原市、王寺町などにもあるそうです。

## 理科のワンポイント「昔のおもちゃ」

私たちが子どもの頃もおもちゃ屋さんにはありました。しかし、日頃使うおもちゃは自分で作ったものでした。これには次のようなものがあります。

### ① 竹でっぽう…

本体Aは竹筒、これに竹を削って作ったBを取り



付けます。Cの穴から出ているBの先端を指で押し上げると竹の弾力でDの穴の端まで勢いよく動き、中に入れておいた石などを飛ばします。

② ゴムてっぼう…まずは枝分かれました木を見つけてきます。これにゴム紐を取り付けるのです。飛ばすための石などをはさむ部分には布や革を使います。どんなゴム紐を使うか、どのように取り付けるか、など工夫するところがいっぱいです。みんなで競い合ってより遠くへ、より勢いよく飛ばせるようにしたものです。

③ スギ玉てっぼう…スギの実がちょうど詰まるような程度の細いしの竹Eを準備します。この穴に合う程度の竹ひごをつけたFを作ります。スギの実を詰めFで押します。もう1つスギの実を詰めて勢いよく押します。圧縮された空気の力で前玉が飛びます。

これらは、どれも変形したものが元に戻ろうとする力を使ったものです。①では竹の変形です。竹は弾力があって元に戻ろうとする力が強いのです。②は引き延ばしたゴム紐が元の長さに縮もうとする力を使ったものです。③は圧縮された空気が元の体積に戻る力を使っています。こんなおもちゃを自分で工夫して作ったのです。

自分の力で変形させ、圧縮し、蓄えられたエネルギーが物を飛ばす、そんな体験がエネルギーについての考え方を伸ばしてくれたのです。

私たちが子どもの頃は外国から原料を輸入しなければならないゴムは貴重品でした。それぞれお母さんにもらったゴム紐の切れ端を大事に大事に使ったものでした。